

第2次安倍改造内閣の目

玉だった女性閣僚のうち、小淵優子経済産業相と松島みどり法相が20日、相次いで辞任するという異例の事態を受け、問題を追及してきた民主党県連会長の近藤洋介衆院議員(比例東北)は「安倍政権のおごといと緩みの現れだ」と批判した。自民党県連会長の遠藤利明衆院議員(県下区)ら同党の国会議員は「われわれも一層気を引き締め、信頼回復に努めたい」と再生を誓った。

県関係国会議員の反応

説明きちんと／気を引き締める必要／非常に残念

近藤氏は17日の衆院経産委員会で小淵氏をただし、2012年に東京・明治座で開催した後援会の観劇会について、同年の政治資金収支報告書に記載がないう点を指摘すると、一気に辞任論が広がった。問題の観劇会に「10年からの3年間だけで、少なくとも5千万円を超過収支の食い違いがある計算になる。政治資金規正法に違反しているのは明らか」と強調した。

近藤氏は現在、党国対の副委員長で、20日の地方創生特別委員会で小淵氏、22日の内閣委で松島氏をさらに追及する構えだった。「単に女性を増やせばいい」と、安倍首相ならではの見せ掛けの閣僚登用だったことが分かった。大臣を辞めたからといって、不問に付されるわけではなく、予算委か政治倫理審査会で「きちんと説明すべきだ」と注文した。

自民党政調会長代理の遠藤氏は「年末を前に燃料代の高騰、米価の下落と地方経済は厳しい状況が続いている。引き続き政党としてしっかり取り組み、国民の信頼を得るよう努めたい」と決意を新たにしていた。さらに「政治資金の収支については、きちん」と報告して説明する義務があり、われわれも一層気を引き締める必要がある」と前を見据えた。

同じ自民党の若手女性議員として、本県選出の大沼瑞穂参院議員は小淵氏と親密な交流があり「女性が輝く社会に向け、内閣が率先して姿勢を示そうと、5人の女性閣僚が登用された。育児しながら働く女性らの励みになっていただけに、非常に残念」と神妙に語った。一方で「政治とカネの問題を提起されておられ、法の順守をもう一度肝に銘じたい」と述べた。